



第152期 中間報告書

2015年4月1日 ▶ 2015年9月30日



ニコン100年の光跡と未来を体感する
「ニコンミュージアム」がオープン ▶ P05

Contents

株主の皆様へ ▶ P01

事業別の概況 ▶ P03

ニュース・フラッシュ ▶ P05

「攻めのIT経営銘柄」に選定

「EISAアワード」を「ニコン D5500」が受賞 ほか

会社概況・株式の状況 ▶ P07

株式会社 **ニコン**

証券コード：7731

株主の皆様へ

取締役会長

木村 真琴

取締役社長兼社長執行役員

牛田 一雄

■ 当中間期の概況

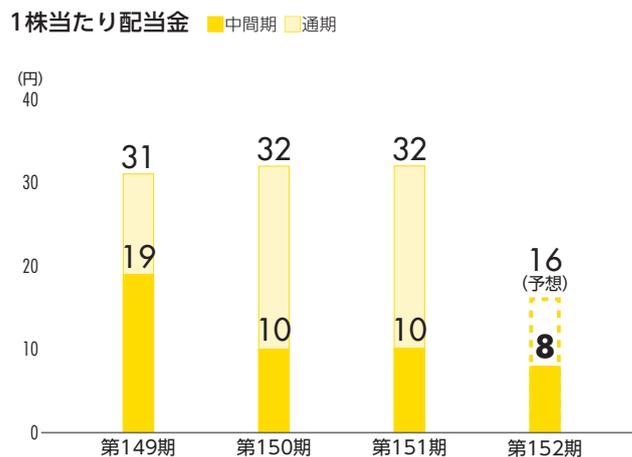
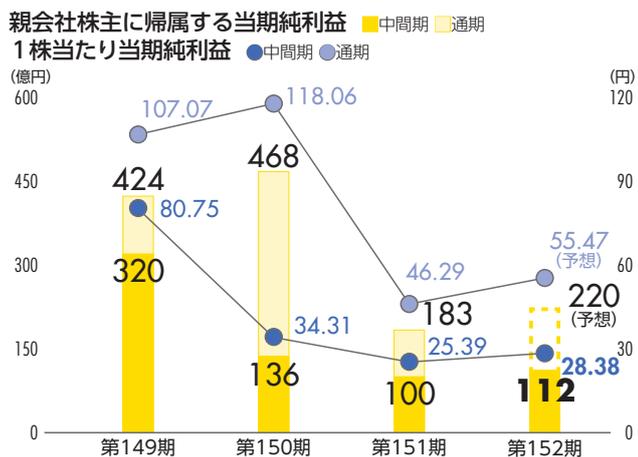
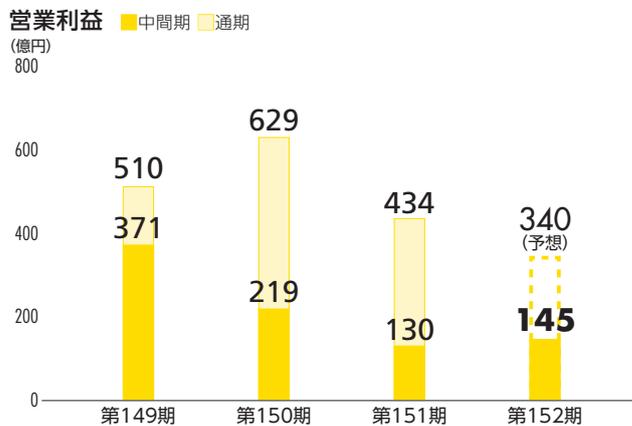
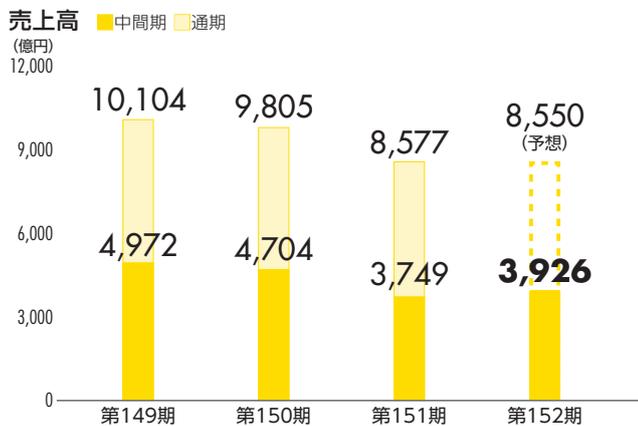
当第2四半期連結累計期間(2015年4月1日～2015年9月30日)の経済状況は、わが国経済においては、個人消費が堅調に推移するなか、企業収益も改善傾向を示すなど、回復基調にありました。また、世界経済は、米国、欧州経済は緩やかな改善傾向にありましたが、中国経済は減速傾向を示しました。

事業別では、精機事業においては、半導体関連分野の設備投資は引き続き堅調に推移しました。FPD関連分野では、中小型パネル用の設備投資は回復傾向にあり、大型パネル用の設備投資は堅調に推移しました。映像事業は、レンズ交

換式デジタルカメラ市場及びコンパクトデジタルカメラ市場は低調に推移しました。インストルメント事業においては、マイクロスコープ関連分野は米州を中心に堅調に推移し、産業機器関連分野は半導体・電子部品関連の堅調な設備投資が継続しました。

こうした事業環境において、当社はコストの削減とリードタイムの短縮を追求し、事業効率の改善に努めてまいりました。さらに、変化するニーズに合わせた製品・サービスの提供による売上規模の拡大にも取り組みました。

また、重要な課題である事業ポートフォリオの再構築のため、網膜画像診断機器市場におけ



※従来の「当期純利益」は第152期より「親会社株主に帰属する当期純利益」に変更。

詳しい財務情報は当社ホームページをご覧ください。 <http://www.nikon.co.jp/ir/> ニコン 投資家情報 検索

る代表的な企業である英国 Optos Plcを完全子会社化し、メディカル事業に本格参入しました。さらに、再生医療向け細胞生産で世界最大手のスイス Lonza社との間で日本における細胞受託生産に関する戦略的業務提携契約を締結し、再生医療用細胞等の受託生産事業にも参入しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は3,926億77百万円、前年同期比177億12百万円(4.7%)の増加、営業利益は145億37百万円、前年同期比14億38百万円(11.0%)の増加、経常利益は202億73百万円、前年同期比55億12百万円(37.3%)の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は112億54百万円、前年同期比11億83百万円(11.8%)の増加となりました。

■ 通期の見通し

精機事業では、半導体関連分野の設備投資は不透明感があります。一方、FPD関連分野においては、中小型パネル用の設備投資は回復傾向を

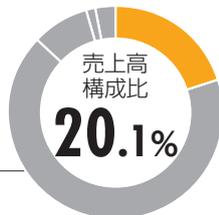
継続し、大型パネル用の設備投資は堅調に推移するものと見込まれます。映像事業では、通期のコンパクトデジタルカメラ市場は引き続き縮小しますが、レンズ交換式デジタルカメラ市場は縮小幅が小さくなることを想定しています。インストルメンツ事業では、マイクロスコープ関連分野では、米州を中心に堅調に推移し、また当社は中国でのシェア拡大が見込まれます。産業機器関連分野では、半導体・電子部品関連のアジアにおける減速の懸念はあるものの、自動車関連は堅調な設備投資が予想されます。メディカル事業では、網膜画像診断機器の欧州・アジアでの需要は低調に推移することが想定されますが、米国においては堅調に推移することが見込まれます。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2015年11月

事業別の概況

精機事業



売上高

789億45百万円

前年同期比
43.6%増

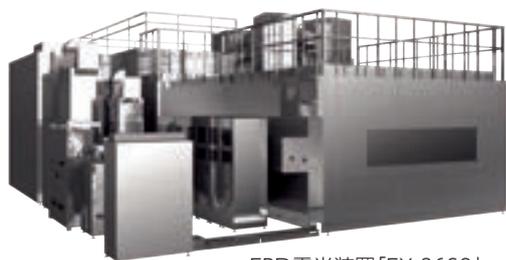
営業利益

40億45百万円

前年同期は
△32億61百
万円

主要製品

半導体露光装置・FPD露光装置



FPD露光装置「FX-86S2」

■ 当中間期の取り組み

半導体露光装置分野

極めて高い重ね合わせ精度と生産性を実現したArF液浸スキャナー「NSR-S630D」の拡販に注力したほか、G450C(Global 450 Consortium)のマイルストーンに基づき、米国SUNY Polytechnic Institute's Colleges of Nanoscale Science and Engineeringに対して、450mmウェハ対応ArF液浸スキャナー「NSR-S650D」を販売しました。

FPD露光装置分野

設備投資回復を背景に、高精細中小型パネルの生産に適した「FX-66S」や「FX-67S」が順調に販売を伸ばしたほか、高精細大型パネルの生産に適した「FX-86S2」の販売が堅調に推移しました。

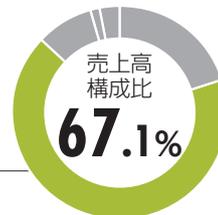
■ 当中間期の業績

売上高は789億45百万円、前年同期比43.6%の増加となり、営業利益は40億45百万円(前年同期は32億61百万円の営業損失)となりました。

■ 通期の見通し

通期の見通しは、半導体関連分野においては設備投資に不透明感がありながらも、FPD装置関連分野の設備投資は堅調に推移することが予想され、売上高は1,950億円、営業利益は150億円となる見込みです。(前年同期は売上高1,707億円、営業利益83億円)

映像事業



売上高

2,636億49百万円

前年同期比
5.0%減

営業利益

242億76百万円

前年同期比
11.9%減

主要製品

レンズ交換式デジタルカメラ・コンパクトデジタルカメラ
交換レンズ・フィルムカメラ・望遠鏡



デジタル一眼レフカメラ「D750」

■ 当中間期の取り組み

レンズ交換式デジタルカメラ

プロフェッショナルモデルに迫る本格仕様のデジタル一眼レフカメラ「D750」や、ミドルクラスモデルの「D7200」などの中高級機が好調に推移しました。

コンパクトデジタルカメラ

2000mm相当の超望遠撮影が高画質で楽しめる多機能モデル「COOLPIX P900」や、小型ボディに光学60倍ズームのレンズを搭載した「COOLPIX P610」等が堅調に推移しました。

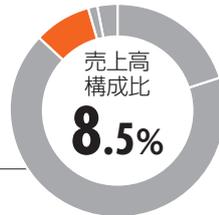
■ 当中間期の業績

市場縮小の影響を受け、当事業の売上高は2,636億49百万円、前年同期比5.0%の減少となりました。営業利益は、製品ミックスの改善や経費削減により計画値を上回り、242億76百万円となりましたが、前年同期比では11.9%の減少となりました。

■ 通期の見通し

通期の見通しは、製品ミックス改善等により収益改善に努めますが、市場縮小も予想され、売上高は5,350億円、営業利益は470億円となる見込みです。(前年同期は売上高5,860億円、営業利益566億円)

インストルメンツ事業



売上高

332億41百万円 | 前年同期比
16.6%増

営業利益

△5億44百万円 | 前年同期は
△21億44百
万円

主要製品

生物顕微鏡・工業用顕微鏡・測定機・X線/CT検査システム



共焦点レーザー顕微鏡「A1R+」

■ 当中間期の取り組み

■ マイクロスコープ分野

研究用倒立顕微鏡及び米州におけるコンフォーカル顕微鏡の販売が全体を牽引し、また為替の好影響により、売上げを伸ばしました。

■ 産業機器分野

半導体・電子部品関連の設備投資の増加、及び半導体検査装置の販売台数の増加により、売上げを伸ばしております。

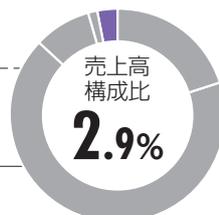
■ 当中間期の業績

売上高は332億41百万円、前年同期比16.6%の増加、5億44百万円の営業損失(前年同期は21億44百万円の営業損失)となりました。

■ 通期の見通し

通期の見通しは、売上高は800億円、営業利益は25億円となる見込みです。(前年同期は売上高723億円、営業利益11億円)

その他の事業



売上高

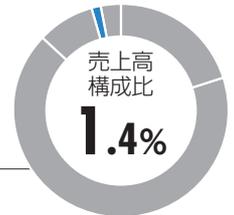
114億87百万円 | 前年同期比
18.2%減

営業利益

14億47百万円 | 前年同期比
57.2%減

主要製品 特注機器・FPDフォトマスク基板

メディカル事業



売上高

53億54百万円

営業利益

△25億83百万円

主要製品

網膜画像診断機器



網膜画像診断機器「Daytona」

■ 当中間期の取り組み

本年5月に完全子会社化の手続を完了した英国Optos Plcを連結の範囲に含めたことにより、網膜画像診断機器「Daytona」をはじめとする同社の売上高を当事業の売上高に計上しました。

■ 当中間期の業績

売上高は53億54百万円となりましたが、メディカル関連の新事業への先行投資等の影響により、25億83百万円の営業損失となりました。

■ 通期の見通し

通期の見通しは、売上高は150億円、営業損失は60億円となる見込みです。

※第152期より、従来の「精機事業」「映像事業」及び「インストルメンツ事業」の報告セグメントに「メディカル事業」を加えております。

■ 当中間期の取り組み

カスタムプロダクツ事業では、固体レーザーが大きく売上げを伸ばしましたが、宇宙関連は減収となりました。ガラス事業では、FPDフォトマスク基板の販売不振の中で光学部品の拡販に努めました。

■ 当中間期の業績

売上高は114億87百万円、前年同期比18.2%の減少、営業利益は14億47百万円、前年同期比57.2%の減少となりました。

ニコン100年の光跡と未来を体感する 「ニコンミュージアム」がオープン



約450点のカメラを一堂に展示



「Spirit of Nikon」

2017年7月に迎える創立100周年を記念し、2015年10月17日、東京都港区の本社2階に「ニコンミュージアム」をオープンしました。

広さ580㎡の展示スペースには、1948年に発売された「ニコンI型」から最新のデジタルカメラまで約450点の歴代カメラを展示するほか、現在のデジタル時代を切り開いた半導体・FPD関連装置、科学と産業の発展を支えてきた顕微鏡、測定機などを、実際の製品や映像で紹介しています。

「Spirit of Nikon」では、『原点としての光学』『精密の追求』等のテーマで100年の歴史の根源・精神を紹介。光とレンズの基本的な性質を体験しながら学ぶ実験室「Lens Laboratory」は、子どもから大人までが楽し



「Lens Laboratory」



極小スケールから宇宙までを体験する映像空間「Universe of Nikon」

める科学スペースです。「Theater」では、ニコン100周年のために和田薫氏によって作曲された交響組曲『LUX CENTURIAE 光に満ちた100年』の楽曲に乗せて、ニコンの100年とその将来をお伝えしています。

1917年の創立以来、光利用技術と精密技術を基礎として、世界中に独自の価値を提供してきたニコンの歩みと進化を体感してください。

ご利用案内

開館時間 10時～18時(最終入館は17時30分まで)

休館日 日曜日、祝日、及び当館の定める日

入館料 無料

交通案内 JR品川駅 港南口から徒歩約7分

京急品川駅から徒歩約10分

お問い合わせ TEL:03-6433-3900 FAX:03-6433-3901

経済産業省及び東京証券取引所の 「攻めのIT経営銘柄」に選定



攻めのIT経営銘柄
Competitive IT Strategy Company

2015年5月に、国内企業の戦略的IT活用の促進に向けた取り組みの一環として経済産業省と(株)東京証券取引所が共同で推進する「攻めのIT経営銘柄」に選定されました。同銘柄は、東証上場企業の中から、収益拡大や事業革新等のための積極的なIT投資や活用に取り組む企業を、IT活用実績や財務指標から選定するものです。今後もITを戦略的に活用しビジネスの変革に役立てていきます。

超望遠撮影を手持ちで楽しめる 「AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR」を発売



焦点距離200-500mm、開放F値5.6のニコンFXフォーマットデジタル一眼レフカメラ対応超望遠ズームレンズです。EDレンズを採用し、色収差を抑えた高い光学性能を実現。手ブレ補正効果4.5段分* (CIPA規格準拠)のVR機構を搭載し、超望遠撮影をこれから始める方からハイアマチュアユーザーまで、手ブレを気にせず手持ちで撮影が楽しめます。

*NORMALモード。35mmフィルムサイズ相当の撮像素子を搭載したデジタル一眼レフカメラ使用時。最も望遠側で測定。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、企業情報や財務情報、事業活動や製品情報などをはじめとする様々な情報を掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも是非ご覧ください。



<http://www.nikon.co.jp>

ニコン

検索

欧州を代表する権威ある賞 「EISAアワード」を 「ニコン D5500」が 受賞



デジタル一眼レフカメラ「ニコン D5500」が、欧州を代表する権威ある映像・写真関連の賞「EISAアワード」において「ヨーロッパ人 コンシューマー DSLRカメラ 2015-2016」を受賞しました。直感的なタッチ操作が可能なバリアングル液晶モニターとWi-Fi®機能を搭載。高画質と豊かな表現力に加え、薄型ボディと深いグリップが高いホールド感と優れた携行性を実現し、写真愛好家にとって撮影・共有に必要なすべての性能・機能を搭載したカメラとして評価されました。

450mmウェハによる半導体製造を目指して 「NSR-S650D」パターニング開始



450mmウェハによる半導体製造の実用化を目指すコンソーシアム「G450C」は、2015年9月、ニコンが納入を完了したArF液浸スキャナー「NSR-S650D」によるパターニング(ウェハへの露光)を開始しました。当社はコンソーシアムを通じて多くのパートナーと密接に協力し、今後も露光技術の革新を通じて次世代半導体の開発に貢献していきます。



会社概況・株式の状況 (2015年9月30日現在)

会社概要

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)
 本社所在地 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟
 TEL 03-6433-3600
 設立年月日 大正6年(1917年)7月25日
 資本金 654億75百万円
 従業員数 単体 6,693名/連結 26,041名

役員

1. 取締役及び監査役 ※印は代表取締役を表しております。

取締役会長	木村 眞琴*		
取締役社長	牛田 一雄*		
取締役	伊藤 純一*	岡本 恭幸	大木 裕史
	本田 隆晴	浜田 智秀	正井 俊之
	松尾 憲治	樋口 公啓	
常勤監査役	橋爪 規夫	藤生 孝一	
監査役	上原 治也	畑口 紘	

2. 執行役員

社長執行役員	牛田 一雄		
副社長執行役員 兼 CFO	伊藤 純一		
常務執行役員	岡本 恭幸	大木 裕史	本田 隆晴
	馬立 稔和	浜田 智秀	御給 伸好
	中島 正夫		
執行役員	風見 一之	今 常嘉	岩岡 徹
	吉川 健二	中村 温巳	小田島 匠
	長塚 淳	谷井 洋二郎	村松 享幸
	平岩 弘之	山本 哲也	杉本 直哉
	中山 正	新谷 誠	濱谷 正人
	萩原 哲		

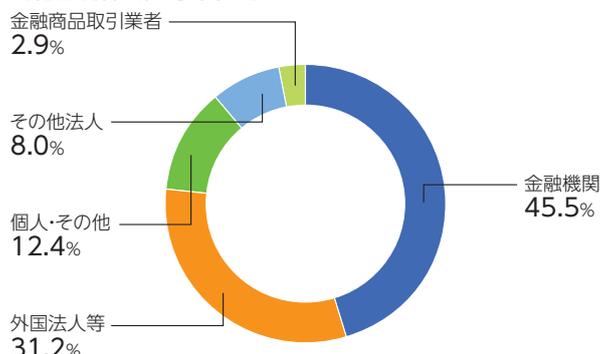
事業所

本社 〒108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟
 大井製作所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3
 横浜製作所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町471
 相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1
 熊谷製作所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜威ヶ原201-9
 水戸製作所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6
 横須賀製作所 〒239-0832 神奈川県横須賀市神明町1-15

株式の状況

発行済株式の総数 400,878,921株
 株主数 45,206名

所有者別株式数分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	24,040	6.1%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	21,725	5.5%
明治安田生命保険相互会社	19,537	4.9%
THE BANK OF NEW YORK -JASDECNON-TREATY ACCOUNT	9,139	2.3%
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,378	1.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,143	1.8%
BNYML -NON TREATY ACCOUNT	7,058	1.8%
株式会社常陽銀行	6,801	1.7%
日本生命保険相互会社	6,709	1.7%
HSBC BANK PLC A/C CLIENTS 1	6,212	1.6%

(注) 持株比率は自己株式数(4,109,320株)を控除して計算しております。

本報告書は、注記のない限り、次により記載しております。
 1. 記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切捨て
 2. 比率は、小数点以下第2位を四捨五入

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金 3月31日
 受領株主確定日

中間配当金 9月30日
 受領株主確定日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

公告の方法

電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。 <http://www.nikon.co.jp/ir/bp/index.htm>

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711(通話料無料)
 三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。



株式会社ニコン
 108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟
www.nikon.co.jp

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

